

平成 16 年 11 月 4 日

大日本製薬株式会社

平成 17 年 3 月期 中間決算関連補足資料

1. 業績の推移

(連結)

(単位：億円、()内は対前年同期増減率)

	平成15年9月 中間期	平成16年3月期	平成16年9月 中間期	平成17年3月期 予想
売上高	813 (0.0%)	1,708 (0.8%)	802 (1.4%)	1,710 (0.1%)
営業利益	43 (29.8%)	93 (27.9%)	42 (1.8%)	88 (5.2%)
経常利益	51 (22.8%)	102 (21.1%)	43 (14.4%)	103 (1.4%)
当期純利益	40 (20.3%)	80 (25.2%)	26 (33.6%)	77 (3.4%)
株主資本利益率(ROE)	———	6.5%	———	5.8%

(単体)

(単位：億円、()内は対前年同期増減率)

	平成15年9月 中間期	平成16年3月期	平成16年9月 中間期	平成17年3月期 予想
売上高	749 (0.0%)	1,578 (1.0%)	735 (1.9%)	1,580 (0.1%)
営業利益	40 (32.3%)	87 (29.8%)	39 (3.5%)	81 (6.7%)
経常利益	53 (19.8%)	101 (19.7%)	41 (21.8%)	98 (3.3%)
当期純利益	43 (24.5%)	82 (28.0%)	26 (40.0%)	76 (7.5%)
株主資本利益率(ROE)	———	6.8%	———	5.8%

2. 平成 16 年 9 月中間期 連単倍率

(単位：億円)

	連結	単体	差額	倍率
売上高	802	735	67	1.09倍
営業利益	42	39	3	1.09倍
経常利益	43	41	2	1.05倍
当期純利益	26	26	0	1.02倍

3. 連結会社の状況(平成 16 年 9 月 30 日現在)

	設立年月日	資本金	持株比率	従業員数
当 社	明治30年5月	13,444百万円	———	2,304人
連結子会社	五協産業株式会社	100百万円	52.48%	76人
	マルピー薬品株式会社	30百万円	100%	55人
	ニチエイ産業株式会社	10百万円	100%	29人
	株式会社マルピー物流サービス	30百万円	100%	29人
合 計	———	———	———	2,493人

(注)従業員数は出向者を除いて表示。出向者を含め執行役員を除いた当社単体の従業員数は2,355人。

- ・本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しています。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。
- ・本資料の数字は四捨五入で表示しています。

4. 減価償却実施額

(単位：億円)

	平成15年9月 中間期	平成16年3月期	平成16年9月 中間期	平成17年3月期 予想
連 結	27.6	57.3	25.2	52
単 体	27.2	56.9	25.0	51

5. 設備投資

・設備投資額(無形固定資産を含む)

(単位：億円)

	平成15年9月 中間期	平成16年3月期	平成16年9月 中間期	平成17年3月期 予想
連 結	25.1	42.9	23.6	35
単 体	25.0	42.8	23.4	35

・設備投資の内訳(単体)

(単位：億円)

	平成15年9月 中間期	平成16年3月期	平成16年9月 中間期	平成17年3月期 予想
生産設備	12.7	16.1	2.6	7
研究設備	6.1	19.6	18.4	25
販管設備	6.2	7.1	2.4	3

・平成17年3月期の主な設備投資

総合研究所 新棟の建設

18億円(総予算30億円、平成16年9月竣工)

6. 輸出額

(単位：億円)

	平成15年9月 中間期	平成16年3月期	平成16年9月 中間期	平成17年3月期 予想
連 結	21.4	36.3	16.7	34
(対売上高比率)	(2.6%)	(2.1%)	(2.1%)	(2.0%)
単 体	21.2	35.5	16.4	33
(対売上高比率)	(2.8%)	(2.2%)	(2.2%)	(2.1%)

7. 売上債権滞留月数

	平成15年9月 中間期	平成16年3月期	平成16年9月 中間期	平成17年3月期 予想
連 結	4.26ヶ月	4.52ヶ月	4.19ヶ月	
単 体	4.41ヶ月	4.67ヶ月	4.32ヶ月	

8. MR数(平成16年10月1日現在)

730人...マネージャー除く

795人...マネージャー含む

9. 販売費及び一般管理費

(連結)

(単位：億円)

	平成15年9月中間期	平成16年3月期	平成16年9月中間期
販売費及び一般管理費	258	515	254
(対前年同期増減率)	(0.4%)	(0.6%)	(1.7%)
(対売上高比率)	(31.7%)	(30.2%)	(31.7%)
人件費	93	183	86
広告宣伝費	9	17	8
販売促進費	18	34	16
研究開発費	76	159	82
(対前年同期増減率)	(2.0%)	(4.7%)	(7.3%)
(対売上高比率)	(9.3%)	(9.3%)	(10.2%)
その他	62	122	62

(単体)

(単位：億円)

	平成15年9月中間期	平成16年3月期	平成16年9月中間期
販売費及び一般管理費	248	496	244
(対前年同期増減率)	(1.3%)	(1.2%)	(1.5%)
(対売上高比率)	(33.0%)	(31.4%)	(33.2%)
人件費	85	168	79
広告宣伝費	9	17	8
販売促進費	18	33	16
研究開発費	76	160	82
(対前年同期増減率)	(1.5%)	(4.4%)	(7.2%)
(対売上高比率)	(10.2%)	(10.1%)	(11.1%)
その他	60	118	59

・平成17年3月期予想

	研究開発費	研究開発費を除く販管費
連結(対売上高比率)	177億円(10.4%)	356億円(20.8%)
単体(対売上高比率)	177億円(11.2%)	336億円(21.3%)

10. 事業の種類別売上高

(連結)

(単位：億円)

	平成15年9月 中間期	平成16年3月期	平成16年9月 中間期	平成17年3月期 予想
医薬品	556	1,185	539	1,187
動物薬	32	59	30	50
飼料・飼料添加物	108	228	111	233
食品添加物	76	152	78	155
その他	41	85	44	85
合計	813	1,708	802	1,710

(単体)

(単位：億円)

	平成15年9月 中間期	平成16年3月期	平成16年9月 中間期	平成17年3月期 予想
医薬品	553	1,179	537	1,181
動物薬	32	59	30	50
飼料・飼料添加物	108	228	111	233
食品添加物	39	77	40	81
その他	17	35	17	35
合計	749	1,578	735	1,580

(注) 各セグメント売上高は千万円以下四捨五入のため、合計数字に合致しない場合があります。

11. 主要製品の販売状況（単体）

・医薬品

（リポート控除前、単位：億円）

品 目 [薬 効]	平成15年9月 中間期	平成16年3月期	平成16年9月 中間期	平成17年3月期 予想
ク ラ リ シ ッ ド [マクロライド [®] 系抗生物質製剤]	82	189	78	182
ガ ス モ チ ン [消化管運動促進剤](内、輸出)	81 (4)	157 (5)	77 (2)	160 (5)
エンシュア・リキッド [経腸栄養剤]	71	138	72	137
プ ロ レ ナ ー ル [末梢循環改善剤]	41	83	46	102
エ バ ス テ ル [持続性抗アレルギー剤]	42	102	31	90
エ ク セ グ ラ ン [抗てんかん剤](内、輸出)	31 (14)	59 (25)	30 (12)	60 (25)
グ リ ミ ク ロ ン [経口血糖降下剤]	25	50	26	50
セ ボ フ レ ン [全身吸入麻酔剤]	21	41	22	42
ロ ペ ミ ン [止瀉剤]	15	32	16	32
セ レ ネ ー ス [抗精神病剤]	16	31	15	28
キ ュ バ ー ル [吸入ステロイド喘息治療剤]	9	15	13	32
(ご参考)モルヒネ製剤 [癌疼痛治療剤](カディアン、 アンペック、オプソなど)	17	33	16	31

・関連事業製品

（単位：億円）

品 目	平成15年9月 中間期	平成16年3月期	平成16年9月 中間期	平成17年3月期 予想
カ ル ド メ ッ ク [犬系状虫症予防剤]	9	18	9	9
ペ ッ ト 用 特 別 療 法 食	105	223	109	229
調 味 料 関 係	16	33	16	36

12. 製品開発状況表

・ 自社で開発中の品目

開発段階	製品名 剤型	一般名	薬効分類または 追加予定投与経路	備考
申請中 新投与経路	アンベック注 ANPEC 注射剤	塩酸モルヒネ morphine hydrochloride	硬膜外投与 適応症：激しい疼痛時における鎮痛・鎮静など	既承認投与経路は皮下投与 5社共同申請
	エフェドリン「ナガキ」 EPHEDRINE NAGAI 注射剤	塩酸エフェドリン ephedrine hydrochloride	静脈内投与 適応症：麻酔管理時の血圧降下	既承認投与経路は皮下投与 3社共同申請
申請中 用量追加	キューバル QVAR 定量噴霧式エアゾール剤	プロピオン酸ベクロメタゾン beclomethasone dipropionate	小児用量 吸入ステロイド喘息治療剤	3M社からの導入品
申請中 剤型追加	エバステル EBASTEL 口腔内崩壊錠	エバスチン ebastin	持続性抗アレルギー剤	Almirall社からの導入品・自社製剤技術による剤型追加

開発段階	製品(コード)名 剤型	一般名	薬効分類	備考
第 III 相	ロナセン LONASEN (AD-5423) 錠剤・散剤	ブロナンセリン blonanserin	統合失調症治療剤	自社開発品
	AS-3201 錠剤	未定	糖尿病合併症治療剤	自社開発品 米国・カナダで第 III 相実施中 国内で第 II 相準備中

開発段階	製品名 剤型	一般名	追加予定適応症	備考
後期第 II 相 / 第 III 相 新効能	エクセグラン EXCEGRAN 錠剤	ゾニサミド zonisamide	適応症追加 (パーキンソン病)	自社開発品 主な既承認適応症：てんかん

開発段階	製品(コード)名 剤型	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
第 II 相	AC-3933 経口剤	未定	痴呆治療剤	自社開発品 欧州で前期第 II 相終了 国内で第 I 相実施中
第 II 相 新効能	ガスモチン GASMOTIN 錠剤	クエン酸 モサプリド mosapride citrate	適応症追加 (胃切除後症候 群)	自社開発品 既承認適応症：慢性胃炎 に伴う消化器症状(胸や け,悪心,嘔吐)

開発段階	コード名 剤型	一般名	薬効分類	備考
第 I 相	AC-5216 経口剤	未定	不安・うつ病治療 剤	自社開発品

【導出検討中の品目】

- AS-3201 糖尿病合併症治療剤(錠剤、自社開発品)
 AE-3763 全身性炎症性症候群(SIRS)に伴う肺障害治療剤(注射剤、自社開発品)

【前期からの主な変更点】

- グリミクロン HA 錠 20mg 発売したため削除
 ザニジップ 他の剤型の開発を検討中
 オーロリックス 開発中止のため削除
 AS-3201 米国・カナダ：第 III 相実施中に変更
 国内：第 II 相準備中を追加
 AC-3933 欧州：第 II 相実施中から前期第 II 相終了に変更

・海外で開発中の主な品目（自社またはライセンサー）

一般名/コード名 (日本での販売名)	薬効分類	開発状況
ゾニサミド zonisamide (エクセグラン)	抗てんかん剤	米国：2000年4月発売（100mg 加 ^o ㊦）。 2004年1月25mg、50mg 加 ^o ㊦を追加発売。 欧州：承認申請中。 (欧米におけるライセンスを2004年4月にエラン社がエーザイへ譲渡)
モサプリド mosapride citrate (ガスモチン)	消化管運動促進剤	欧米：全世界*の開発権を武田薬品にライセンスする契約を2001年11月に締結。TGRD**にて第 相。 中国：CyberPharm社が2001年6月に発売。 韓国：大熊製薬が2002年4月に発売。
AS-3201	糖尿病合併症治療剤	米国・カナダで第 相試験実施中（自社）。
AC-3933	痴呆治療剤	欧州での前期第 相試験を終了（自社）。 2004年2月、Aventis社に日本を除く全世界の開発権をライセンス。
ブロナンセリン blonanserin AD-5423	統合失調症治療剤	2001年5月、Almirall社に全世界*の開発権をライセンス。 同社が欧州・米国で第 相。
AC-5216	不安・うつ病治療剤	2002年2月、Novartis社に全世界*の開発権をライセンス。 同社が欧州でPOC試験（Proof of Concept Study）。
AG-7352	抗癌剤	2003年10月、Sunesis社に全世界の独占的開発権をライセンス。 同社が第 相試験実施中（同社開発コード：SNS-595）。

*：日本、韓国、台湾、中国を除く。

**：Takeda Global Research and Development Center, Inc

【前期からの主な変更点】

AS-3201 第 相試験実施中に変更
AC-3933 第 相試験実施中から前期第 相試験終了に変更
AG-7352 第 相試験準備中から第 相試験実施中に変更

13. 主な開発品のプロフィール

キュバール 吸入ステロイド喘息治療剤（用量追加：小児）

- ・ 自社/導入：導入（3M社から導入）
- ・ 2002年8月発売。噴射剤としてオゾン層を破壊しない代替フロン HFA-134a を使用した吸入喘息治療剤。小児用量追加の申請中。
- ・ 開発段階：申請中（国内）

エバステル 持続性抗アレルギー剤（剤型追加：口腔内崩壊錠）

- ・ 自社/導入：導入（Almirall社から導入）
- ・ 1996年6月発売。強力で選択的な末梢ヒスタミンH₁受容体拮抗作用を示す。また、作用は持続的で、1日1回投与で有効性が維持される。口腔内で溶けて水なしで飲める錠剤の剤型追加を申請中。
- ・ 開発段階：申請中（国内）

ロナセン 統合失調症治療剤

- ・ 自社/導入：自社
- ・ ドーパミンD₂受容体およびセロトニン5₂受容体の遮断作用を有しており、統合失調症の陽性症状（幻覚、妄想など）のみならず、陰性症状（感情の平板化、意欲低下など）に対する改善効果も期待される。また、類薬に比べ錐体外路症状や血圧低下等の副作用が少ないことも期待される。
- ・ 開発段階：フェーズ 実施中（国内） Almirall社がフェーズ （欧州・米国）

A S - 3 2 0 1 糖尿病合併症治療剤

- ・ 自社/導入：自社
- ・ アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病合併症の一つである糖尿病性神経障害を改善する。国内外で開発中の同種薬剤に比べ、酵素阻害作用が強く、作用持続が長い。フェーズ a 試験の結果、ヒト神経内への移行は良好で用量依存的に神経内ソルビトール、フルクトースの蓄積を阻害した。現在、糖尿病性神経障害に対して有用性を精査するためのフェーズ 試験を実施している。
- ・ 開発段階：フェーズ 実施中（米国・カナダ）、フェーズ 準備中（国内）

エクセグラン 抗てんかん剤（適応症追加：パーキンソン病）

- ・ 自社/導入：自社
- ・ 1989年6月、抗てんかん剤として発売。ドーパミン受容体作用薬に代表される従来の抗パーキンソン病薬と異なるメカニズムでパーキンソン病の症状を改善すると考えられる。
- ・ 開発段階：後期フェーズ /フェーズ 実施中（国内）

AC - 3933 痴呆治療剤

- ・ 自社/導入：自社
- ・ ベンゾジアゼピン受容体にパーシャルインバースアゴニストとして作用する。アセチルコリンエステラーゼ阻害剤とは異なり、アセチルコリン遊離促進によりアセチルコリン神経系を賦活するとともに、グルタミン酸神経系を賦活する作用も有し、痴呆症の中核症状である記憶障害の改善が期待される。
- ・ 現在欧州で行っている試験終了後、Aventis 社が海外開発を行う予定。
- ・ 開発段階：前期フェーズ 終了（欧州）、フェーズ 実施中（国内）

ガスマチン 消化管運動促進剤（適応症追加：胃切除後症候群）

- ・ 自社/導入：自社
- ・ 1998年10月発売。世界で初めての選択的にセロトニン5-HT₄受容体にアゴニストとして作用する薬剤で、優れた消化管運動と胃排出促進作用を示す。胃切除後症候群への適応症拡大のためのフェーズ 実施中。
- ・ 開発段階：フェーズ 実施中（国内）

AC - 5216 不安・うつ病治療剤

- ・ 自社/導入：自社
- ・ ミトコンドリア型ベンゾジアゼピン受容体にアゴニストとして作用することによりニューロステロイドの生成を促し、それがGABA_A受容体等に作用するという新しいメカニズムに基づく抗不安、抗うつ剤。
- ・ 開発段階：フェーズ 実施中（国内）
Novartis 社が POC 試験（Proof of Concept Study）（欧州）

以 上